研修並びに行政視察報告

（青雲クラブ　丸山　征司）

≪視察日程≫

研修・視察 月　日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
6 月 24 日 （水）	兵庫県洲本市	ウェルネスパーク五色	エネルギーパーク洲本について
6 月 25 日 （木）	兵庫県高砂市	高砂市工楽松右衛門旧宅	日本遺産北前船寄港地・歴史文化発信事業について
	兵庫県宍粟市	宍粟市役所北庁舎	子育て支援事業について
6 月 26 日 （金）	兵庫県たつの市	たつの市役所	たつの市民病院機構の地方独立行政法人への移行について
	兵庫県朝来市 竹田城跡	竹田城跡	城跡の保存整備、観光誘客体制等について

≪視察内容≫

１．　兵庫県洲本市　人口 38,507 人、面積 182.38 ㎢

●視察目的

ウェルネスパーク五色を拠点とした、洲本市バイオマス産業都市構想を調査研究し、安来市が現在取り組んでいる再生可能エネルギー地産地消ビジョンに基づく各種取組の参考とするため。

●説 明 者　洲本市企画情報部企画課職員

●説明概要　エネルギーパーク洲本について

再生可能エネルギー施設の整備により環境に配慮したまちづくりに資するとともに、施設での見学や環境学習等の受け入れにより広く啓発普及する目的で整備された。

大きな特色として、あわじ環境未来島構想、再生可能エネルギー活用推進条例、洲本市バイオマス産業都市構想等に基づき、菜の花エコプロジェクトによるバイオ燃料製造、竹やぶ解消のための竹チップボイラー、地域貢献型ため池ソーラー発電所、自家消費型小水力発電設備など、先導的な取り組みを産学民官の連携により数多く事業化している。

※竹資源の有効利用

兵庫県では「あわじ竹資源エネルギー化５か年計画」を策定し、放置竹林の適正管理を図ることを目標に掲げた。これに基づき、島内で年間 500 トンの竹チップを製造利用することを目標に、竹の伐採に取り組む団体への支援を行い、環境ＮＰＯは竹チップ製造工場を整備するなど、供給体制の構築を進めた。

※竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーの整備

2016 年 3 月、竹チップの出口確保・大量消費のため、国県の補助金を活用し、竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーをウェルネスパーク五色の温浴施設「ゆ～ゆ～ファイブ」に設置。

竹チップ製造のために放置竹林の間伐等適正管理を行うことで、有害鳥獣による農業被害の軽減、美しい里山の保全、雇用の創出を図る。また、バイオマス燃料の地産地消によるエネルギー自立と、既存ボイラーの重油消費量半減によるＣＯ２排出削減（約150t/年）に寄与する。

※地域貢献型再エネ事業

洲本市、淡路信用金庫、淡陽信用組合、ＰＳ洲本株式会社、龍谷大学の五者は、豊かで自立した持続可能な地域社会の実現を図るため、相互に協力・連携することとする地域貢献型再生可能エネルギー事業推進に関する協定を締結し、市内二か所の農業用ため池に浮かぶ太陽光発電所を設置。





担当者から説明を受ける



バイオマスボイラー



龍谷フロートソーラーパーク洲本

●考　　察

視察の冒頭、まずは洲本市の再生可能エネルギー事業について座学を受けた。ウエルネスパーク五色内の宿泊施設「浜千鳥」（本市の「夢ランドしらさぎ」のような施設）を会場に、竹チップをボイラーの燃料に活用する冷泉利用をはじめ、公園全体の多様な取組事例を学び、事前の質問に対する回答や質疑応答を行った。

その後、現地視察として、公園周辺の菜種油搾油所と、少し離れた市内のため池に設置されたフロート型ソーラーパネルを直接拝見した。

本市の木の一つである竹について、島田町は筍の産地として知られているが、山林所有者の高齢化などにより、現在は必要以上に竹が繁茂している状況にある。バイオマス発電の燃料には適さないとされる中、除伐した竹を市内業者が竹チップにするなど、その有効活用の模索が続いている。こうした背景を踏まえると、洲本市が取り組んでいる、竹チップをボイラーの燃料にして冷泉を沸かす手法は、幾多の苦労があったと推察されるものの、本市の竹の活用策を考える上で大変参考になると思った。

また、菜種油搾油所には本市内農事法人の栽培された菜の花の菜種が集積されており、島根県出雲市地内に菜種油搾油所があるにも関わらず、なぜここにあるのかと思い、理由を伺うとともに、視察から帰った後に本市農事法人関係者にも理由を伺った。

菜の花栽培による菜種油の生産や、廃油再生による再生可能エネルギーの活用については、私自身が十数年前に滋賀県全体の「菜の花プロジェクト」を視察し、一般質問で提言した経緯がある。比較的温暖で平坦な気候風土を持つ洲本市においては、この取り組みがぜひ成功してほしいと願っている。また、ひまわりの栽培やその種の搾油など、景観作物として観光資源に役立てる取り組みには大きな期待を寄せる一方で、連作障害のリスクや、ひまわりを再生可能エネルギーとして活用する際の技術的な難しさについても詳しくお話を伺うことができた。こうした現場特有の課題やご苦労の数々は、今後の本市における施策展開においても非常に参考になると感じた。

ため池でのフロート型ソーラーパネルは本市島田町でも十数年前から同様な取り組みがあるも、ため池内にフロート型ソーラーパネルまで桟橋を設置する事で、鳥のフン等から自然発生する雑草除去に役立てる取り組みは参考になった。

２．　　兵庫県高砂市　　人口 83,389 人、面積 34.38 ㎢

●視察目的

高砂市の日本遺産「北前船寄港地・歴史文化発信事業」の取り組みを調査研究し、安来市・雲南市・奥出雲町の日本遺産「出雲国たたら風土記・鉄づくり千年が生んだ物語」関連の各種取組の参考とするため。

●説 明 者　高砂市教育委員会生涯学習課、政策部広報観光課、高砂市観光交流ビューロー

職員

●説明概要　日本遺産北前船寄港地・歴史文化発信事業について

平成　9 年　高砂堀川周辺地区整備基本計画の策定

平成 17 年　高砂みなとまつづくり構想の策定

平成 18 年　兵庫県歴史的景観形成地区等に指定

平成 19 年　たかさご万灯祭のスタート

平成 28 年～30 年　高砂・堀川周辺地区整備事業

工楽松右衛門旧宅を拠点として、江戸時代に繁栄したみなとまち、高砂の歴史文化の魅力を発信し、観光を促進し地域の活性化を目指すため、堀川周辺を整備し、歴史まちづくりを推進する。

平成 30 年　工楽松右衛門旧宅の公開開始



工楽松右衛門旧宅



高砂堀川遺跡



高砂地区歴史的景観形成地区



常夜灯



担当者から説明を受ける



景観形成地区内町内会案内看板



松右衛門帆織機



高砂市オリジナルマンホール蓋

●考　　察,

高砂市の観光拠点となっている工楽松右衛門旧宅で北前船寄港と北前船の帆製造の経緯、関連する他自治体と共同で上記日本遺産認定に至った経緯を伺った後、南堀川遺構周辺を職員にガイドしてもらいながらまち歩きした。

日本全国どこも日本遺産認定を受けたがり、高競争率から単独認定が難しく、本認定のように複数の自治体を挙って、数十の自治体が共同で認定を受ける中、実際に北前船寄港地であり、駅前に北前船を模したモニュメントがある本市が、せっかくの認定や追加認定の機会

に、名乗りを挙げなかったようだという事を、残念に思った。

周辺のまち歩きでは、現代的な感性によるクラフトショップ等が見受けられた一方で、歴史的なまちなみの景観と高度に調和させるような取り組み（例えば、柿渋や炙り板の活用など、他の先進自治体で見られるような手法）については、今後のさらなる展開や工夫の余地があると感じた。それでも全体的に、本市と比べて多い人口と高い人口密度の都会であり、誰もが知る『高砂』発祥の地で同名の市として、圧倒的な知名度を持ちながらそれに胡坐をかかず、積極的に文化振興・観光振興に取り組まれる様は、本市も見習いたいと思った。

３．　兵庫県宍粟市　人口 30,949 人、面積 658.54 ㎢

●視察目的

第３期宍粟市子ども・子育て支援事業計画に基づく子育て支援事業の各種取組を調査研究し、安来市のやすぎっこしあわせ計画による各種施策の参考とするため。

●説 明 者　宍粟市健康福祉部子育て支援課職員

●説明概要　宍粟市子育て支援事業について

※第３期宍粟市子ども・子育て支援事業計画

基本理念　つながり　はぐくみ　子どもが輝くまち

※基本目標

・子どもの成長を支える基盤づくり

・安心して子どもを産み育てる環境づくり

・子育て環境をみんなで支える体制づくり

・健やかな子どもをはぐくむ環境づくり

※こども家庭支援センターでの取組

・母子健康手帳交付　・予防接種について　・ママの心や身体の相談

・しそうスクスク応援プラン　・乳幼児健診　・赤ちゃんとママの教室

・育児の相談　・ほっとママ講座ルーム　・離乳食教室　・子育て支援センター事業

●しそう木育おもちゃ広場＆木育ワークショップ

　しそう木育おもちゃ広場＆木育ワークショップは、木のおもちゃで遊びながら「木のぬくもり」を肌で感じ、木の端材を自由な発想で組み合わせて何かを作ることで、「個性豊かな心」を育むことをめざします。



●しーたん広場

　木のおもちゃで自由にあそべます

　しーたん広場は、お子さんとその保護者が一緒に遊んだり、子育ての相談ができたりする場所です。里帰り中の人やおじいちゃんやおばあちゃんとの利用もできます。



●ほっと mama ルーム

　ほっと mama ルームは、妊婦さんから産後６か月頃までのママと赤ちゃんの部屋です。

　みんなで話をしながらゆったりとした時間を過ごしてみませんか。里帰り中の人も利用できます。



●親子りとみっく教室

リトミックで育む未来の力

音楽を通じて体を動かすことで、子どもの力を育むことを目的に開発されたリトミック。音を楽しみながら、表現力、創造力、集中力を養います。

ピアノに合わせて歌ったり、体を動かし親子でスキンシップをしたりして楽しみましょう。動きやすい服装でお越しください。リトミック終了後は絵本の読み聞かせや保健師、栄養士のミニ講座もあります。

なお、教室の参加には申込みが必要です。

●ベビーマッサージ＆ママのストレッチ



助産師による「ベビーマッサージ＆ママのストレッチ」を開催します。
参加希望の人は事前に電話で申し込みください。当日参加もできます。
なお、予防接種の日とその翌日は、ベビーマッサージは行えませんのでご注意ください。

●しそう子育て応援アプリ“スクスク

”スクスク”は、宍粟市から子育て世代のみなさまへ、子育てに関する情報を、よりタイムリーに、よりダイレクトにお届けするためのアプリです。
宍粟市からの情報発信だけでなく、利用者のみなさまがお子さんの成長を記録したり、予防接種の予定や記録を入力いただくことで、お子さんの成長曲線を確認したり、予防接種のリマインド通知が届くなど、子育てをサポートしてくれます。







担当者から説明を受ける



山崎子育て支援センターしーたん広場



視察受け入れの感謝の意を込めて安来節を披露



宍粟市役所北庁舎前にて

●考　　察

宍粟市は本市と比べて約 1.5 倍の面積の 9 割を森林が占める「森林王国」であり、人口は本市と同程度でも人口密度は本市の 6 割程度の自然豊かな市である。一方で、南端に他市と隣接する山崎地区が他の 4 つの地区と比べて人口が突出している構造が、本市と似ているため、参考になった。

特にファミリーサポートセンターはその山崎地区だけに 1 か所あり、そのシステムとし

て、子育て上の手伝いが必要な「お願い会員」と、子育てがある程度終わり、子育て上の手伝いが可能な『まかせて会員』と、ある程度子育てが落ち着き、状況によっては手が空く一方で、まだまだ子育て上の手伝いを欲する時もある「どっちも会員」の３種類登録出来る内容は本市城谷地区ファミリーサポートセンターと全く同じであり、供給よりも需要の方が多く、私を含めた「どっちも会員」はある程度登録人数が揃っていても、いざ子育ての上の手伝いが必要な需要が重なった際に、「お願い会員」の需要をカバーしきれない悩みも共通だなと感じた。本市同様、子育て世代が核家族としてまち部に集中し、それ以外の中山間地域では親世代との同居が多く、公共交通等インフラ乏しい中でも、山崎地区１か所のみ設置の状況において、特に不満やトラブル等無いとのことだったが、本市よりも行政面積が広く人口も少ない条件の中にあって、ファミリーサポートセンターをもう１か所増やしたいという職員の姿勢、想いに感銘を受けた。

４．　兵庫県たつの市　人口 69,891 人、面積 210.87 ㎢

●視察目的

令和２年４月１日、たつの市民病院から独立行政法人たつの市民病院機構に経営形態が変わった際の経緯や独立行政法人移行過程における議会、病院職員、市民等に対する説明などのやり方を調査研究し、安来市立病院の独立行政法人化に向けた取組の参考とするため。

●説 明 者　たつの市健康部健康課職員

●説明概要　たつの市民病院機構の地方独立行政法人への移行について

たつの市民病院は、たつの市御津町に位置する市内最大規模の病院で、「市民に必要な医療の提供」「地域包括ケアシステムの貢献」「健全な経営の取組」を基本方針として運営しています。

平成２４年には新病院が建設され、市民の多様な医療ニーズに応えるとともに、安全・安心の確保を目指した医療の提供を行ってきました。しかし、これまでも市民病院の経営改革・経営改善に努めてきましたが、赤字傾向が続く厳しい状況が課題となっていました。

このような状況から、今後の安定的かつ持続可能な病院形成を検討するため、市は外部有識者を含めた「たつの市民病院経営検討委員会」を立ち上げました。

経営検討委員会では約４か月間にわたり議論が行われ、市は急速な高齢化の影響等から今後予想される医療環境の変化に対応するために、職員の雇用を継続でき、病院運営の自由度が増すことができる「地方独立行政法人」への経営形態の変更が適切との経営検討委員会からの答申を受けて、市民病院の地方独立行政法人化を進める方針を決定し、令和２年４月１日から「地方独立行政法人たつの市民病院機構」として運営をしていくこととなりました。

平成 30 年 5 月　たつの市民病院経営形態検討委員会の設置、市長が市民病院の経営形態について諮問

平成 30 年 9 月　経営形態検討委員会が「地方独立行政法人が最も適切」とする答申書を市長に提出

平成 30 年 10 月　答申を受け、市として地方独立行政法人化を進める方針を市長が市議会にて表明

平成 31 年 3 月　「地方独立行政法人たつの市民病院機構定款」、「地方独立行政法人たつの市民病院機構評価委員会条例」が市議会にて議決

令和 元年 9 月　「中期目標」が市議会において議決

令和 元年 12 月　地方独立行政法人化への関係条例等が市議会において議決

令和 2 年 3 月　兵庫県知事が地方独立行政法人化を認可

令和 2 年 4 月　「地方独立行政法人たつの市民病院機構」設立



担当者から説明を受ける



たつの市議会議場にて

●考　　察

地方独立行政法人化の背景は病院収支の赤字、最大 718 百万円の繰り入れにあり、赤字の原因として、平成 27 年 5 月時点で病床利用率 15%を記録したように、医療機能が医療ニーズに対応していない事、平成 24 年の新病院建設に際して、高額な医療機器を導入した事、病院運営コスト（人件費）の高止まりを挙げて説明をされた。本来、自治体病院に求められる最も重要な役割は、二次救急をはじめとする不採算部門の担い手としての機能であり、比較的採算性の高い回復期医療については民間病院との役割分担を図るべきという視点も重要であると考える。また、高額な医療機器導入は赤字の一因との見方がある一方で、市民の安全安心に寄与出来ているという見方もあると考える。また、改革前の経営方針に基づき建設された新病院をわずか数年で大幅に機能転換することは、関係者の皆様にとって、大変な

ご苦労と労力を伴うものであったと推察する。

市民病院が改革後に収支改善を実現されたことは、関係者の皆様の多大なるご努力の賜物であり、非常に素晴らしいと感じた。ただ、その主な要因を振り返ると、急性期から回復期への病床転換といった医療体制の見直しが大きな推進力になっていたように思われる。その上で、経営基盤の強化として進められた地方独立行政法人化については、そのものが経営改善の絶対的な決め手であったと一概に評価することは難しい面もあるかと考える。

今回の視察を通じて、市民病院の独立行政法人化は市民にとって重大な方針転換である一方、住民の間ではまだ十分に浸透しておらず、病院の経営体制の変更というものが市民にとって直感的に理解しにくいテーマであることがうかがえた。移行後の変化が市民生活において劇的な違いとして実感されにくい側面はあるものの、地方独立行政法人化をはじめとする病院改革を通じて「何とか経営を立て直したい」という職員の皆様のひたむきな思いや熱意を強く感じることができた。

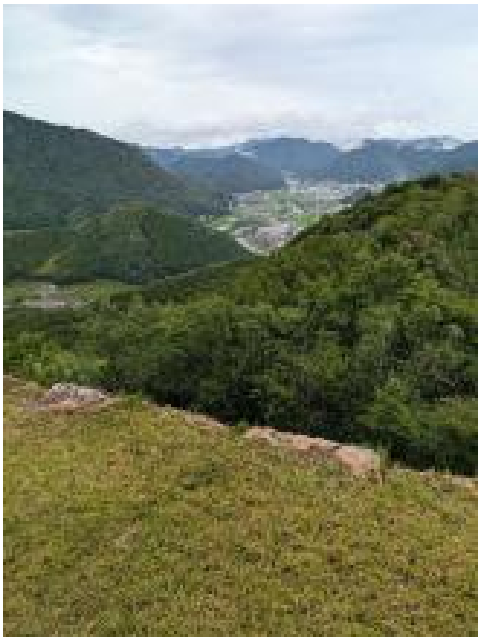
５．　兵庫県朝来市竹田城跡　　城跡の保存整備、観光誘客体制等について







登山途中「落ちない岩」



本丸からの眺望



竹田城跡入口料金収受棟

●考　　察

本市の月山富田城の観光振興策の参考にするため、十数年ぶりに竹田城を訪れた。あいにくの雨天や自身の身体状況、安全面への配慮から登城は断念したものの、周辺状況を視察した。現地では駐車場から城跡までの長い歩行や交通規制など、障がい者や要配慮者への合理的配慮に課題を感じた。本市においても、すでに整備されている遊歩道の活用に加え、さらなるアクセスの充実など、更なる充実を図ってはどうかと思った。